

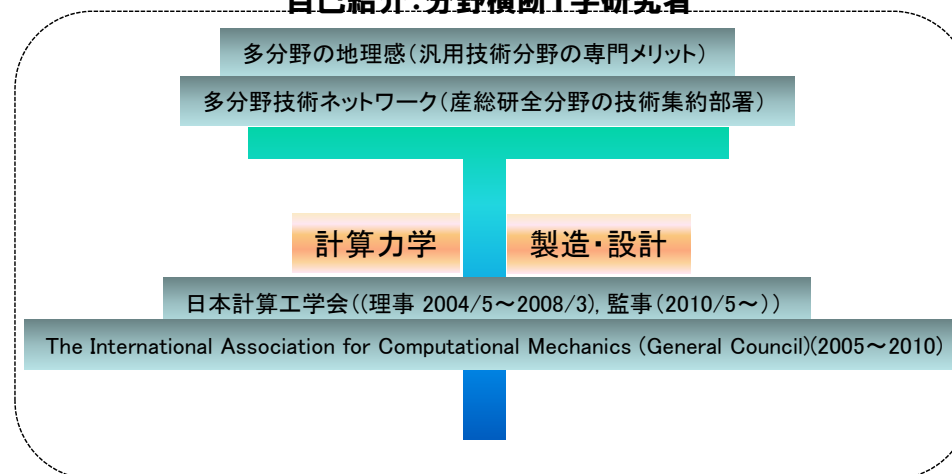
将来技術先取り設計

グリーンイノベーション関連

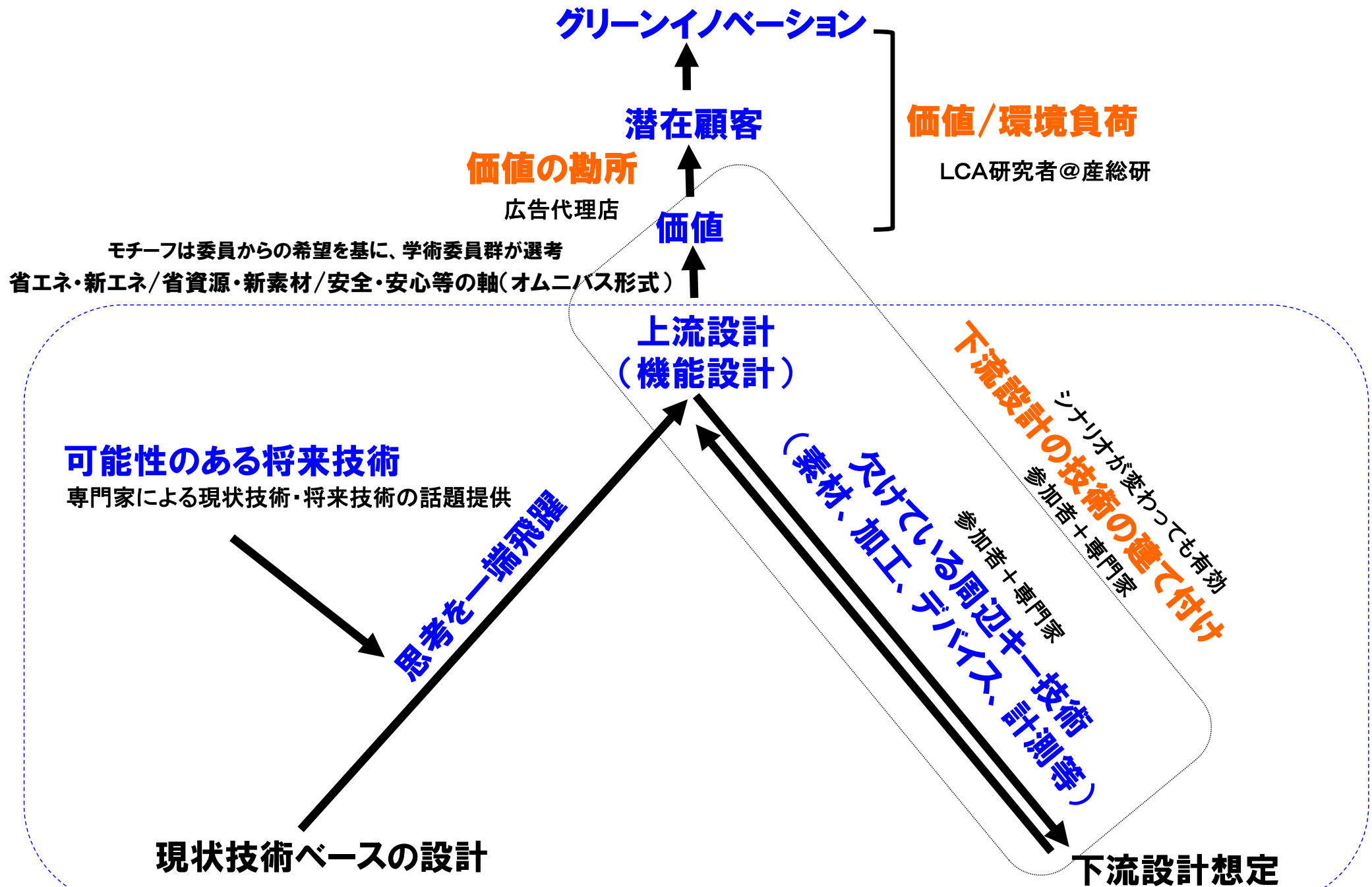
グリーンイノベーション価値創造に関わる将来の製品・システム群の設計について、ハード・ソフト等の将来技術を仮定(借り置き)し、LCA視点も含めた上で、どのような製品設計が可能かを議論し、実際に開発及び製造する際に欠けている周辺技術は何か、どのような技術開発が可能か、を同時に議論する事で、近い将来に向けた有効な技術開発のブレークスルーを見出す事を目的とする。

提案者:手塚明(産総研)

自己紹介:分野横断T字研究者



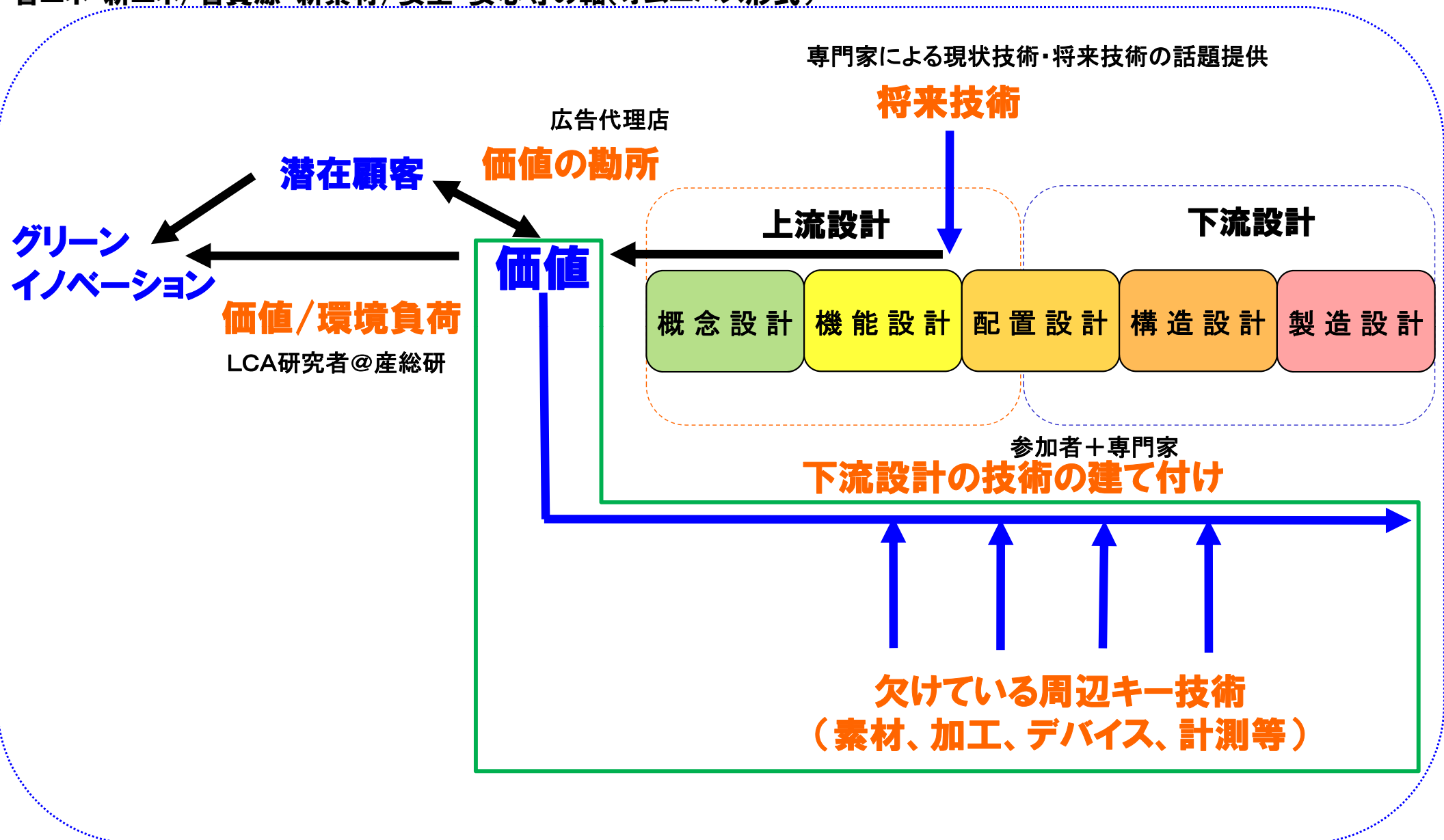
June 9, 2011



事前準備: 上流設計研究者 + 必要に応じて全分野の内外ネットワーク活用@産総研

省エネ・新エネ/省資源・新素材/安全・安心等の軸(オムニバス形式)

モチーフは委員からの希望を基に、学術委員群が選考



事前準備:上流設計研究者+必要に応じて全分野の内外ネットワーク活用@産総研

- 1. 省エネ・新エネ/省資源・新素材/安全・安心等の軸で、毎回、異なるモチーフで集中議論し、オムニバス形式の会議とする。各社からの参加者は毎回異なってもかまわない。**
- 2. 始めの数回は、過去事例として、例えば、省エネ大賞の受賞製品の開発者に、開発当時の将来技術開発の視点で、話を伺い、それを基に、将来技術先取り設計の議論を行う。**
- 3. モチーフは委員からの希望を基に、学術委員群が選考した上で、その分野の専門家による現状技術及び将来技術の話題提供と共に、話題提供者も含んだ、将来技術先取り設計のブレインストーミングを行う。**
- 4. 報告書の内容としては、オムニバス形式の将来技術先取り設計の議論を取り纏め、近い将来に向けた有効な技術開発ブレークスルーを示した内容と共に、本議論の方法論も明示し、今後の参考情報とする。**

期待される成果

有効な技術開発ブレークスルーの明示、参加企業のグリーンイノベーション提案力の底上げ

終了後の構想

公的資金によるフィージビリティスタディの実施、産学共同による大型の研究開発プロジェクトの提案・実施、企業による単独／共同プロジェクト化(コンソーシアムの形成)

この時期に研究会に人を出すのは企業としては難しいところかと思いますが、毎回、最低限、「専門家による現状技術及び将来技術の話題提供」による情報のお土産は持って帰れるようにしますし、全分野をカバーする産総研内外ネットワークを活用し、議論の事前準備もキチンと行い、参加者の益になるようにします。よろしくお願い申し上げます。